

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 58

2018.4.2 発行

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第 58 回 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ 『ふるさと春日井の明治維新 150 年』

平成 30 年 3 月 11 日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ：『ふるさと春日井の明治維新 150 年』と題して、河地清氏（本会会長）に講演していただきました。

氏は、明治維新以来の 150 年間の自治の取り組みの変遷と産業経済の変化、資本主義経済社会の確立とそこでの価値観の変化をまとめる作業をされた報告がありました。自作の「鳥居松の歴史」年表を素材にしながら、歴史の転換点の出来事をもとに総括されました。春日井の発展は、古代から「まほろば」の地といわれて平穏で豊かな地として今日まで生活してきたと言われていています。その発展の中心であった「鳥居松地域」の近代明治維新から 150 の期間は、本当にそうであったのだろうかというところに視点をおいて、この時期を振り返ってみることは、意義のあることです。今日的「豊かさ」を、「ふるさと意識による「まちづくり」から求めようとする課題としてとらえ、今日の当面する課題に結び付けようとする意欲を感じさせる氏の持論である「ふるさと」論の総括にもなる発表でもありました。フォーラム参加者は、21 名でした。



講演する 河地 清 氏



会場風景

－発表要旨－

I. 明治1年から10年まで …

(1)慶応4年(1868)1月鳥羽伏見の戦い(1月3日から5日)で幕府軍は敗北。戊辰戦争のはじまりであった。その一報が名古屋に届くと、京都に派兵するかどうかで、派兵を主張する金鉄党(尊王攘夷派の成瀬家側)と派兵に慎重なふいご党(佐幕派の竹腰家側)との対立が深まった。14代尾張藩主徳川慶勝は京都にいた。朝廷は慶勝の帰国を命じた。佐幕派勢力の肅清と近隣大名を朝廷側につくよう説得させるためであった。尾張徳川家は藩祖徳川義直の時代から代々勤王の家風であった。井伊直弼の弾圧で隠居していたが、桜田門外の変以降、竹腰兵部少輔は失脚、慶勝は隠居の身ながら金鉄組とともに頻りに上京して政局にあたった。複雑な立場にあった慶勝は勅命に従がい佐幕派の弾圧を決意した。1月20日に名古屋城に帰った。出迎えた家老を逮捕し斬首した。さらに大番頭ら13名を逮捕し、切腹ないし斬首とした。名古屋藩の**青葉松事件**である。(2)この戊辰戦争にあたり、林金兵衛は**草薙隊**を編成して、これを率いて尾張勤王党(金鉄党)の中心人物**田宮如雲**(尾張藩士参与)に従って京都に赴き、鳥羽伏見の戦いに際して京都の南門を護った。林金兵衛はさらに、4月には田宮如雲が甲信の賊徒討伐に勅命を受けての出兵の折、草薙隊300名を率いて葦崎に赴き、活躍した。明治3年に戊申戦争が終了したあと、林金兵衛は兵備を屯田兵制として、草薙隊を美濃国**各務原**に駐屯させ、開拓事業にあたった。明治4年の廃藩置県での改革で藩兵は解散を命じられ、草薙隊は解散し、帰農した。(この部分は記録者による補筆、林金兵衛の動向については「郷土史かすがい」28号に村中治彦氏が詳しく書いている)河地清氏は、維新のこの出来事とその後のこの地の帰趨を決めた重大事であったとおさえられた。(3)産業基盤では、明治4年7月開設の勝川郵便局、明治5年7月設置の内津郵便局、明治9年4月開設の坂下郵便局の役割りを指摘された。明治10年の福沢諭吉の「**分権論**」は中央集権を批判し、人民自治の主張が政治社会変革の起点となるとおさえられた。また、年代は不詳だが、小牧市立小牧小学校に所蔵される額「**身体健康精神活発**」が京都・茨木・千葉・群馬の5県に残るという紹介がありこの地域への福澤諭吉の影響力を指摘された。

II. 明治11年から20年まで …

明治11年9月に国会開設を求める**愛国社再興**会議。板垣退助が旧愛国公党(明治7年、板垣が参議になり一旦解散した)の同志に再結集を呼び掛けたもの。西日本が中心で、その東端に愛知県があった。本社は東京に置いた。この自由民権運動の流れの中に、同年10月25日に春日井郡**地租改正反対運動(農民騒擾)**が始まる。明治12年5月、最初の愛知県県会議員選挙を行い、**愛知県会**が開設された。林金兵衛は東春日井郡の議員に選出され、「郡区吏員公選ニスベキ建議」を發議した。明治13年7月、**愛国交親社**が結成され、明治14年4月、林金兵衛の嫡子**国太郎**が入会した。明治14年10月、国会開設の詔書が出た。同月、自由党愛知県支部結成。同月、松方財政の本格的開始。12月8月から5ヶ年、「**儉約示談**」の実践が42ヶ村で始まった。しかし、「**明治14年政変**」(明治23年期し国会開設する旨の

詔勅、参議大隈らの罷免)を前に、明治 14 年 3 月、林金兵衛は 57 歳で死去した。明治 15 年 4 月自由党総裁板垣退助は岐阜で遭難した。明治 17 年 3 月、地租改正条例が廃止され、**地租条例**が発布。自由民権運動が愛国交親社を中心にこの地域にも広がりを見せた。明治 17 年 5 月、県会議員選挙。この年を境に、春日井郡(明治 13 年 2 月、東西に分離)での自治をめぐる政治の動きがしばんだと河地氏の見立て。

III. 明治 21 年から 29 年まで …

明治 22 年 2 月、**大日本帝国憲法**が発布された。明治 23 年 7 月、**第一回衆議院総選挙**を実施。11 月には**第 1 帝国議会**が召集された。明治 24 年 10 月、濃尾地震。同年 12 月に、田中正造が足尾鉍毒事件について衆議院へ質問状を提出している。立憲制の開始である。明治 25 年、前田正名(まさな、1850-1921)は殖産興業政策の立案者の一人であったが、地方産業振興運動と町村是運動の実践を始める。明治 27 年 5 月、中央線敷設が正式に第 6 回帝国議会で決まった。27 年 8 月、**日清戦争**が始まった。29 年 11 月、工事事故で 6 名が死亡し、定光寺にその慰霊碑が建てられた。名古屋・多治見間の開通は明治 33 年 7 月。産業基盤としての鉄道が敷かれた時期だった。

IV. 明治 30 年代から 44 年まで …

日本資本主義社会が独り立ちする明治 30 年前後の①東京の貧民②職人社会③手工業④機械工場⑤小作人の生活の 5 部構成でルポルタージュをまとめた「**日本之下層社会**」を横山源之助が出版した。明治 33 年 7 月中央線(名古屋～多治見)開通。明治 36 年、農商務省編纂の「**職工事情**」が出版された。坂下では製糸業が繁栄(昭和 10 年まで)した時期である。明治 37-38 年**日露戦争**。明治 40 年、「故郷の廃屋」という歌謡が流行。明治 43 年、石川啄木の歌集「一握の砂」が出た。

V. 大正 1 年から 14 年まで …

明治天皇が崩御(61 歳)、7 月 30 日改元。大正 1 年、憲政擁護運動(護憲運動)起る。大正 3 年 8 月、**第一次世界大戦**勃発。大正 6 年、ロシア革命。大正 7 年 8 月、シベリア出兵、9 月終結。大正 12 年 9 月、関東大震災。大正 14 年「女工哀史」出版。

VI. 昭和 1 年から 19 年まで …

大正 14 年大正天皇の崩御(48 歳)。12 月 25 日改元。昭和 2 年、**中央線鳥居松駅**開設。昭和 4 年 10 月、世界恐慌始まる。「夜明け前」「蟹工船」出版。昭和 5 年、郷土教育盛んに。明治 6 年、**農村不況の深刻化**。同年 9 月、柳条湖事件(満州事変)。昭和 7 年満州開拓団出発。昭和 12 年 7 月、盧溝橋事件、日中戦争。昭和 14 年、鳥居松・鷹来・西山・高蔵寺に**陸軍工廠**建設。昭和 16 年 12 月、**第二次世界大戦**。昭和 18 年 6 月、**春日井市誕生**。軍需工場を核とした地域の発展があり「軍都」春日井と言われ人口も増加していった。

VII. 昭和 20 年から 30 年まで …

昭和 20 年 8 月 15 日終戦。**GHQ 統治**による民主化政策がはじまる。復興経済がはじまる。出川、松本、大泉寺、坂下地域を中心に亜炭採掘が最盛期を迎え国道 19 号線の交通量が増加していった。昭和 25 年朝鮮戦争の勃発により、特需景気が到来し、坂下、篠木、鳥居松、

勝川地域の各商店街が活況を呈して行く。鳥居松本通商店街（下街道）に四九の市が開設され、活況を呈した。

VIII. 昭和 31 年から 47 年まで …

日本経済は、高度経済成長期を向かえる。昭和 34 年 9 月 26 日伊勢湾台風、公害の発生が社会問題化した。王子製紙春日井工場の煤煙が、農作物、民家の屋根瓦の腐蝕などの被害をもたらす公害問題が発生した。昭和 39 年 10 月東京オリンピックが開催された。

IX. 昭和 50 年から平成 6 年まで …

昭和 57 年 5 月高蔵寺ニュータウンが完成する。鳥居松商店街振興組合、鳥居松本町商店街組合、鳥居松広小路商店街組合各組合参加の商店街がにぎわいを呈した。広小路商店街にアーケードが完成した。本町通りを下街道「ブラリーモール」とし、歴史街道として整備した。平成 2 年頃からバブル経済がはじまる。昭和 63 年ふるさと創生事業がじまる。「地方の時代」と言われるようになる。

X. 平成 7 年から平成 22 年まで …

平成 7 年 1 月 17 日阪神淡路大震災、日本長期信用銀行、山一証券、拓殖銀行破綻バブル経済の終焉。デフレ経済の始まり。平成 10 年中心市街地活性化法、大規模小売り店舗立地法、TMO など制定される。平成 13 年春日井市人口 30 万人に達し、特例市となる。全国の商店街の「シャッター商店街化」進む。大型店舗の寡占化、ロードショップ、道の駅、コンビニエンスストア一化が急速に進み、地域の旧商店街の消滅、崩壊が進む。平成 20 年 5 月 23 日「歴史まちづくり法」が制定され、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する市民活動、NPO による「まちづくり」の動きがでてきた。同年 4 月「ふるさと納税」が始まり、地方（地域）の魅力、特色が発信されるようになってきた。平成 21 年リーマンショックによる、世界金融危機がはじまり日本経済のデフレ停滞化は続く。

X I. 平成 23 年から平成 30 年まで

平成 23 年 3 月 11 日東日本大震災・福島第一原子力発電所事故発生により、明治維新 150 年の節目にあたって、人々の社会と経済・文化に対する価値観の見つめ直し、転換の意識が現れはじめた。鳥居松商店街振興組合は、地域活性化策として「街角メッセージ」の取り組みを始める。平成 25 年 9 月 8 日東京オリンピックが 2020 年（年号の変わった平成 32 年）に開催が決定した。平成 26 年地方創生事業始まる。富岡製糸場世界文化遺産登録、平成 27 年明治維新産業遺産世界文化遺産登録、地方の自立、活性化の動きが活発になってきている。平成 28 年 7 月鳥居松下街道四九の市閉鎖 70 年の歴史閉じる。鳥居松夏祭り盛況、平成 30 年「街角メッセージ」春日井駅前商店会を含めて、4 商店街に拡大。

以上明治維新 150 年の歴史の流れを「地域」を中心として概観して解ることは、今日という時点が、明らかに大きな歴史的節目に置かれていることが見えてきます。従ってこの流れを踏まえてこれからの 10 年、20 年を考えて行かなければならないと考える

と述べられた。

(記録：塚田忠雄)

OPINION

歴史の「節目」とは

そもそも「節目」とはどのような語義か。広辞苑によれば「木材や竹など、節となっている箇所」または「物事の区切りとなるところ」と記されています。

日本の歴史の中で社会の様相が大きく変化した節目となる出来事として、大化改新（645年）鎌倉幕府成立（1192年）明治維新（1868年）が上げられます。現代社会の骨格が創り上げられたのが、「明治維新」であることは、歴史の通説として普遍的な認識となっています。平成30年は、平成最後の年となり、来年は新しい年号で出発します。「ふるさと春日井」も施政75周年の節目の年となります。この節目に春日井市は、「第六次総合計画2018～2037ー私たちのまちの未来図ー」を策定しました。そんな中での「明治維新150年」の節目を迎えました。本会の活動も5年を過ぎ6年目の節目を向かえました。人生の中にも、出産、入学、卒業、就職、結婚、定年など様々な「節目」があります。取り巻く環境が大きく変わって行く歴史の流れを感じながら、そもそも「節目」とは何かを考えてみたいと思いました。なぜならば、人間社会も人生も「節目」と言われる時点を境にして、大きく周辺の環境や状況が変化するからです。社会の環境やとりまく状況が変わることによって、人間の意識も変化し、行動も生活スタイル、様式も変化して行きます。「意識が変われば行動も変わる」の例えは一面の真理です。直近の出来事で大きな「節目」をもたらしたものは、紛れもなく平成23年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災・福島第一原子力発電所事故であったことは何人も否定しない事実ではないでしょうか。1000年に一度と言われる確立で発生した、自然界の現象と、人間の叡智が創りだした原子力エネルギーによって被ったこの試練を、どのように受け止め、これからの未来に向けてどのように生かして行けばよいのかが厳しく問われている今日です。「ふるさと意識」を原点として未来を考える「節目」の時代なのかも知れません。

(文責：河地 清)

2017. 12. 28

春秋

来年は明治維新150年という。政府は記念事業を行う方針らしく、菅義偉官房長官は「明治の精神に学び、日本の強みを再認識して次世代に残す」とは極めて重要」と記者会見で述べている。その伝でいえば、今年江戶幕府の統治が崩れ150年の節目でもあった。

▼260年続いた「パクス・トクガワナ（徳川の平和）」の終わりである。末期になるに従い、政策の変遷は激しく、財政や金融の不安定さは顕著になった。長くツケを放置し、その場しのぎで取り繕っていたところへ、黒船の外圧も加わり、国内は揺れに揺れた。種々の「派」が対立、多くの尊い命も犠牲になっている。

▼維新の節目に自らを肯定する意義を見いだすのもよい。けれど、入り乱れる利害の調整や痛みを伴う改革を避ければ、どれほど混乱を来すか。幕末にも目を向けねばなるまい。人材面でも教訓はある。評論家の野口武彦さんは「平成の晋作、龍馬」を気取る人はいるが、井伊直弼になろうと言う政治家がいない、と記した。

▼井伊の評価は様々だ。一面では心ならずも日米修好通商条約を調印し、国内の混乱の責任を一身に負ったのも事実だろう。野口さんは「現代日本が必要としているのは井伊のようにあえて泥をかぶるのを辞さない政治家ではあるまいか」と言う。カクメイを連呼し目先だけ変えているようでは革命も維新も遠ざかるだけだ。

日本経済新聞（平成 29 年 12 月 28 日）記事

第 59 回

「ふるさと春日井学」研究フォーラムの ご案内

「ふるさと春日井」の魅力を再発見する F O R U M

「ふるさと意識なくして地域の活性化なし」

「地域活性化・まちづくりの応援メッセージ」

Forum for Furusato Kasugai Studies

Forum テーマ：

『「まちづくり」と地域活性化』

—鳥居松地域の「まちづくり」を中心に—

日 時：平成 30 年 5 月 23 日（水） 午後 3 時 3 0 分～5 時

場 所：中部大学コモンズセンター（不言実行館）3 階

TEL：0568-51-4478（〒487-8501 春日井市松本町 1200）

講 師：河地 清 氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長）

フォーラム内容：今回のフォーラムは、中部大学学生を対象とした講座です。

ふるさと春日井の魅力・特色を認識してもらい、魅力を活かした「まちづくり」について、鳥居松地域の「まちづくり」実践報告を聞いてもらい若い人達の意見を聞く……………

後は FORUM で

（今回は、会員の方のみの入場で行います。）

※事務局：〒486-0825 春日井市中央通り 2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索



フォーラム案内は中日新聞「ウィークエンドガイド」（毎週金曜日）近郊版に掲載します